

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 38

学校名・団体名	宇城市立不知火小学校
HPアドレス	http://es.higo.ed.jp/shiranuhi/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	実態にあった丁寧な支援で輝く不知火っ子
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、平成28年熊本地震によって大きな被害を受けた。その中でも「その環境の中での最適な学び」を提供するという意識のもと教育実践に取り組んでいる。</p> <p>本校は、学校全体として主研究教科を国語とし、その中でユニバーサルデザインの視点に立った授業改善をめざし授業に取り組んでいる。授業のUD化を推進するにあたり、特別支援学級及び通級指導教室での授業の手立てが児童のどのような実態に即し、どのような意味をもち、どのような効果をねらったものかを研究を通して全職員で共有し、通常学級にも広げ、在籍児童一人一人の児童に「わかる・できる」という成就感につなげていきたいと考えている。</p>	

研究テーマ

「実態にあった丁寧な支援で輝く不知火っ子」

1 本校の現状

本校は、平成28年熊本地震により2棟ある校舎のうち1棟が完全に使用できなくなるという大きな被害を受けた。平成29年10月中旬にその使用できなかった1棟の修復が終わるまで、仮設校舎での授業を余儀なくされた。現在(平成30年3月)でも、敷地内のどこかで工事が常に行われている状況である。学校としては、「その時期にあった最適な学びを提供する」という意識のもとに様々な工夫をし、児童の健全な成長をめざして、学校目標の「ひとみ輝く不知火っ子の育成～ひとみ キラキラ 心 ぴかぴか～」のもと取り組んでいる。

2 本校の特色

本校は特別支援学級6学級に30名が在籍し、通級指導教室では10名が指導を受けている。管内でも有数の特別支援学級に力を入れている学校である。本校の特色は、交流及び共同学習を計画的・積極的に実施していくことで、特別支援学級と通常学級の双方向的な授業改善につなげているところである。特に昨年度からその特別支援教育のノウハウを生かしながら、すべての児童が授業の後「わかった・できた」という成就感をもてるように、ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を全職員の共通実践として取り組んでいる。

3 活動内容

(1) 年間を通じての共通実践事項

ユニバーサルデザインの支点到った授業改善を行う上で、通常学級・特別支援学級の全ての学級で視点を以下の3つに絞り共通実践を行ってきた。

視点1：焦点化…ねらいや活動が絞られた授業

視点2：視覚化…視覚的な手がかりを重視した授業

視点3：共有化…組織化された話し合い活動

併せて、ICTの整備を進め、デジタルとアナログのそれぞれのよさを効果的に活用する授業づくりも行ってきた。

(2) 小中合同教育講演会(平成29年8月30日)

不知火中校区の中学校1校、小学校2校の教職員合同研修として、くまもと授業づくりのユニバーサルデザイン研究会代表である吉見和洋氏に「『全員参加』の授業をつくるために～どの子も楽しく『わかる・できる』授業のユニバーサルデザイン～」というテーマで講演をいただいた。

なぜ、授業のユニバーサルデザイン化が必要なのかについて社会の変化に伴う教育に対するニーズ、教育環境の変化、そしてユニバーサルデザインの視点に立った授業を行うための配慮事項などの視点でわかりやすく講演していただいた。

(3) 校内研修「UD化プレゼン大会」(平成29年10月25日)

校内研修において、日頃の授業の中で「すべての児童がわかりやすく」という視点で、どのような取組をしているのかを1人5分程度で発表し、その後グループ討議を行い、授業のユニバーサルデザイン化にとって必要なことを話し合った。



UD化プレゼン大会の様子

(4) 特別支援学級及び通級指導学級公開授業及び授業研究会(平成29年12月13日～15日)

特別支援学級6学級8名すべての先生方が公開授業を実施し、その後授業研究会を行い、特別支援学級で行われている児童に対する支援のノウハウをどのように通常学級での授業のUD化につなげていくのかを話し合った。



教育講演会の様子

(5) 校内研修教育講演会(平成30年2月21日)

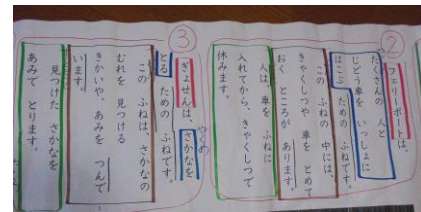
ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善を推進するにあたり、学級をどのように分析し、手立てをおこなっていくことが有効なのかを教育のUD化に先進的に取り組んでいる小学校で研究のアドバイザーとしても活躍している第2はまゆう療育園の辻川地域巡回相談員を招き、研修を行った。「知能検査の分析の仕方～学級の実態

を捉えた授業のUD化～」というテーマで、知能検査の結果からわかる学級の特質と特質にあった手立てについて学んだ。

3 研究の実際

(1) 視点1 焦点化…ねらいや活動が絞られた授業について 【1年「いろいろなふね」の取組】

本単元の目標「書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り、ほかの本で読んで調べたことをまとめることができる。」を確実に達成させるために、単元を通して教材文の読み取りの段階から内容を色で整理させながら学習を進めた。4種類の船の説明について、共通した言葉や内容はないか、全体を並べて比較した。「～ためのふねです」「～があります」「つんでいます」など共通した言葉を児童から吸い上げ、さらにそこに書かれている内容を学級全体で意見を交流しながら探った。その上で共通した内容が書かれている「役目【青】」「つくり【黄色】」「すること・できること【緑】」を板書・児童の教科書ともに同じように整理することで、児童の思考のスタートラインをそろえ、より深い読み取りへつなぐことができた。



(2) 視点2 視覚化…視覚的な手がかりを重視した授業

【6年「イースター島にはなぜ森林がないのか」の取組】

本論の構成を読み取る場面で、本論を5つのイラストで提示した。児童は、イラストを手がかりとして叙述と照らし合わせながら考え、意味段落をまとまりとしてとらえることができた。

また、イラストを並べ替え、そのように並べた理由を考える活動を行った。活動を通して、児童は段落同士がどのような関係でつながっているか考え、「まず・次いで・さらに」などの接続語や、「ずっと続く」などの補足の言葉を用い、それぞれの段落の関係を明らかにした。



(3) 視点3：共有化…組織化された話し合い活動

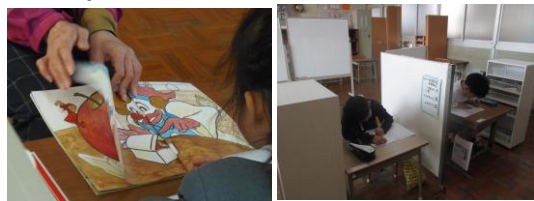
【1年 情緒障害学級の取組】

ペアや全体で話す場合に、「何のための船」「そのために何が載せてあるか。」「それを使うと何ができるか。」の視点を提示することで、それぞれの船の構造や装備を分かりやすく説明することができるようになった。またその際、児童が「船博士」となり写真や模型を示しながら話すことで、児童が意欲をもつて話をしたり、読みの助けになったりした。また、読みが確かなものか評価したりすることもできた。



(4) 特別支援学級の環境整備

知的学級では、文部科学省の星本を、使用する人数分用意するとともに、個に応じた課題をそれぞれ一人で進めることができるワークシステムを用意するなど環境整備を進めることで、より教育的なニーズにあった丁寧な指導・支援を推進することができた。また、ICT機器整備も併せて行い、児童が主体的に学べる工夫を図った。



4 成果や児童への効果等

- 特別支援教育の環境整備を充実させてきたことで、一人一人の教育的なニーズに合った学びへの支援・指導が今まで以上に展開できるようになった。
- 特別支援学級の実態に即した手立てがどんな意味を持ち、どのような効果をねらったものであるかを研修を通して、共有することにより、通常学級でのユニバーサルデザインの視点に立った授業改善につなげようという指導者側の意識の高まりが見られた。
- 児童アンケートでも焦点化・視覚化・共有化を重視した授業に取り組むことにより、本校児童の学習に対する意識の高まりがはっきり見られた。